



学 習 院 大 学 史 料 館 ミ ニ ユ ー ジ ア ム ・ レ タ ー

Gakushuin University
Museum of History

Museum Letter No.46

発行日 ● 令和3年(2021)9月1日

もくじ

ごあいさつ	1
I ボンボニエールの始まりの物語	2
II 外国との絆の物語	3
III かわいいの物語 / IV デザインとお印の物語	4
V 歴史の中の物語	5
VI 様々な形の物語	6
VII 様々な材質の物語	7
定家本 源氏物語「若紫」	8



大張子形ボンボニエール(金平糖と共に)
(継宮明仁親王(上皇陛下)誕生内宴) 昭和9年【個人蔵】

ごあいさつ

学習院大学史料館では、令和3年度秋季特別展として「ボンボニエールが紡ぐ物語」を開催いたします。橋本麻里・永青文庫副館長をお招きしての史料館講座はオンラインで行われますが、展示につきましては、皇室ゆかりの美しい工芸品であるボンボニエールの数々を北2号館1階の展示室でご覧いただく予定です。さまざまな歴史と結びついた、ボンボニエールの豊かな物語をぜひお楽しみいただければ幸いです。新型コロナウイルスの感染対策上、展示室の開室時間を例年より制限させていただくなど、ご来場の皆さまにはご不便をおかけしますが、何とぞご理解のほどお願いいたします。また、出品にご協力いただいた関係者の皆さまに、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

今回の秋季特別展では、源氏物語の写本のうち、藤原定家が校訂した「若紫」も展示いたします。大河内家ご所蔵の定家本「若紫」は、一昨年2月に見つかり大きな反響を呼びましたが、このたび一般社団法人 霞会館のご協力のもと、関東圏で初めて公開する運びとなりました。第一級の史料を展示できますことを大変嬉しく思うと同時に、大河内家と一般社団法人 霞会館の皆さまに心より御礼申し上げます。

(館長 水野謙)

ボンボニエールが紡ぐ物語

ボンボニエール(仏: Bonbonnière)とは、皇室の御慶事に際して制作・配布される菓子器です。フランス・イタリアなどの西欧諸国では結婚や子供の誕生の際に容器入りの菓子を配る慣習があります。

この慣習は明治中期に日本の皇室にもたらされました。日本では容器に加飾をすることで、伝統工芸の技術を継承し、職人の保護育成をはかり、海外への広報の役も担う日本独自の工芸品として発展します。手のひらにのるミニチュア感が人々の心を捉えたのか、皇室のみならず華族家や企業、一般家庭にまでその慣習は広がり、数百種におよぶ様々な意匠のボンボニエールが作られました。

皇室ではこの慣習が現在も続いており、御慶事の際にはボンボニエールが制作されています。令和元年の即位の礼、昨年の立皇嗣の礼の際にもボンボニエールが配られました。

本展では調査研究より明らかとなった歴史的背景からボンボニエールが持つ物語を紐解き、日本独自の美しい伝統文化と工芸技術など様々な側面をご覧いただきたいと思います。

この展覧会に、一昨年発見された定家本 源氏物語「若紫」(大河内家所蔵)を公開出来ることとなりました。

二つの雅やかな世界をご堪能ください。

(学芸員 長佐古美奈子)